

【千葉県】スイートホームうなかみ

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 2008年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1272000298
法人名	株式会社 楽天堂
事業所名	スイートホーム うなかみ
所在地	千葉県旭市蛇園3060-1 (電話) 0479-50-1780
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2008年2月12日

【情報提供票より】(20年2月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9人 常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	21,400 円	
敷金	有(200,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月30日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低 66歳	最高 96歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜医院・石井皮膚科・わたなべ眼科・根本歯科
---------	-----------------------

株式会社日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の要望に後押しされ、早い段階から福祉に取り組んできた法人が運営する共同生活可能な施設「スイートホームうなかみ」がある。自然に囲まれた中にあり、窓から見える景色は四季の移り変わりを映し出してくれ、季節を感じながら過ごせる環境である。お便り「スイートホームうなかみあれこれ」には職員が写した入居者全員の日常生活・行事写真が印刷されており、家庭的な雰囲気が感じられる。地域と協同で支援体制の強化を図ることを目指しており、今年は看護ステーションとの連携で24時間の医療体制が構築されている。また、医療機関との連携も強化し、安心できる生活支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は評価の意義を理解しており、前回は入居者と職員の食事のとり方と手洗いの徹底が改善課題に挙げられ、食事時の職員配置による雰囲気作りの改善や手洗いの徹底に取り組んできた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票の作成には管理者と全職員が意見を出し合いながら参加することで意義や目的の理解を深めており、結果については評価を前向きに受け止め、問題解決のきっかけにしようと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は地域関係者を構成員として年1回開催されている。事業所の現状報告すると共に、参加者から提案される意見・要望に即した施設運営を心がけサービスの向上と地域の交流につなげたいと考えている。市の担当者とは連絡を密にし、情報の共有化が図られている。また、地域の勉強会に積極的に参加することによりサービスの質の向上や情報収集にも役立てている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が意見や苦情を言いやすい環境作りを心掛けている。直接要望や意見をもらうことにより入居者・入居者家族と職員の間信頼関係が生まれ、意見交換の場として意向の把握や適切なサービスの提供にもつなげようと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方々との交流により、施設に対する理解や協力が得られるよう努めている。地域の一員として地域活動や行事に積極的に参加することにより現状の情報収集を行い地域ケアの推進に取り組んでいる。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「共生」をもとに、共に助け合い個性を尊重し、笑顔で接し、ゆとりのある生活の提供という事業所独自の理念をつくりあげている。全職員は共に意識しながらサービスの提供に活かしている。		地域密着型サービスとして地域への支援と関係強化を目指した理念を入れていただくことを望みます。地域密着型サービスの役割を理解し、現場で培った知識が地域に活かされることが職員の自信となり質の向上につながることを期待します。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関など見え易い場所に掲げ、朝の申し送りやミーティング等で確認しあい、全職員が理念の実践に取り組んでいる。また、新人職員研修時には理念を伝えると共に浸透も図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩などで地域の人とのふれあいのきっかけを作ることによりコミュニケーションの輪を徐々に広げている。自治会には入会していないものの、下水道清掃など地域活動や行事などに積極的に参加することにより地域の一員として貢献する姿勢がうかがわれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果については問題点を確認しあい、改善に努めている。今回は自己評価票の作成に管理者と全職員が意見を出し合いながら参加することで意義や目的の理解を深めており、結果については評価を前向きに受け止め、改善につなげたいと考えている。		

【千葉県】スイートホームうなかみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区長、民生員、組長、近隣住民、入居者家族、施設関係者が出席して年1回運営推進会議が開催されている。現状報告すると共に参加者から提案される意見・要望を施設の課題としサービスの向上と地域の交流の促進に活かしている。		
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月初めに市の高齢福祉課に入居者・待機者名簿を提出したり市職員が来訪することもあり、情報の共有化が図られている。また、市の地域ケア会議やケアマネ会議の勉強会には必ず参加しており、サービスの質の向上や情報収集に役立っている。地域包括支援センターとより良い関係を構築しており、今後はよりいっそうの連携を深めたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「スイートホームうなかみあれこれ」には入居者全員の暮らしぶりが写真入りで掲載されている。行事へのお誘いや職員の異動報告などにも利用されており、毎月の金銭報告書と一緒におたよりとして家族の元に届けられている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置してあるものの利用されておらず、入居者・入居者家族から直接要望・意見をもらうことが多い。ほとんどが職員や法人向けの意見・要望であり関係者全員で検討し柔軟に対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動職員は入居者一人ひとりに挨拶し家族には毎月発行のおたよりで報告している。入居者には気持ちよく送り出してもらうための言葉かけや心理的負担の軽減の配慮をしている。新人職員については馴染みの期間を設けているが、慣れた職員と一緒に対応することにより信頼関係構築の期間短縮につなげている。職員の勤務状況を観察し変化を汲み取り早期にケアをするなどで退職を最小限抑える努力をしている。		

【千葉県】スイートホームうなかみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修では「グループホームに勤務する介護支援専門員のための研修会」などがあり各自に応じた研修に参加している。社内研修には職員が参加して毎月行われる専門アドバイザーによる事例の研修会がある。職員自身が体験した事例について解決のアドバイスを受けることで技術や知識の向上につなげている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>第4ブロックのグループホーム連絡会が行う見学会や研修会には積極的に参加している。介護支援専門員や管理者などの情報交換の場としてお互い交流を深めることにより地域全体のサービスの質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者、入居者家族に見学に来てもらい希望があれば体験入居も可能であり、職員全員が声かけを徹底することにより不安にならないように心がけている。話しやすい環境作りと共に家族の生活状況や困りごとなども把握し、より良い関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	施設を一つの家庭と考えており、お互いに和気あいあいと生活し入居者が職員をあだ名で呼ぶなど親しみやすい雰囲気はみてとれる。職員が入居者から対応や行動を指摘された時に観察力の鋭さを感じると共に、自己反省のきっかけにもなっている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の健康状態を常に心がけ、意向を汲み取りながら入居者にとって最良の生活を提供できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向や全職員の意見も取り入れて定期的にカンファレンスを行ない介護計画に活かしている。家族への説明もしっかりなされており了解も得ている。		

【千葉県】スイートホームうなかみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者会議は半年ごとに行われているが、入居者や家族の要望や変化が生じた時はその都度見直しを行っている。ミーティングで入居者の課題とケア方法・ケア状況について意見交換し、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望に応じて通院や送迎などの外出支援も行っており、入院時には積極的に入院中の支援を行うなど要望に応じて出来る範囲内でのサービス提供に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の医師による往診があり、変化が生じた時は協力医院に連絡し指示を仰いでいる。また、緊急時には総合病院との連携も図られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者・家族と急変時や重度化した場合の対応については話し合っており、職員は出来る限りの支援は行っている。今後は医師や看護師など関係者全員参加の連携体制作りを考えている。		今後は関係者と方針の統一を図り、医療関係者の連携体制を確立すると共に、対応については意思確認書等を作成し家族に了承を得ることを希望します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に注意を受けないように常に言葉遣いや対応に配慮し、プライバシー確保に努めている。個人記録などの書類は鍵付の書庫に厳重に保管されており、個人情報の保護が徹底されている。		

【千葉県】スイートホームうなかみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムは一人ひとりほぼ決まってはいるが楽しい活動を取り入れ、要望を把握し、体調や気分を確認しながら入居者のペースに添った支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食業者による高齢者福祉食を利用しており、入居者の嗜好や能力に応じて食材の種類や調理方法を変えている。全員でテーブルを囲み楽しい会話ができるような雰囲気作りにも配慮している。行事の時は職員が食材の買い出しから調理まで行い入居者をもてなしたり、また、外食の機会も設け食事が楽しみになるような工夫がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	水曜日以外は毎日入浴でき、入居者の楽しみの一つになっている。入浴拒否される方には言葉かけに工夫し入浴をうながしたり、清拭等に変更したり意向に沿った入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の要望で図書館で本を借りたり同法人の経営するデイサービスへボランティアとして赴いたり意向を踏まえて本人に合った楽しみや役割などを見つけて支援をしている。水曜日はレクリエーションの日としており軽い運動なども取り入れるなど気分転換にもなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や体調・気分考慮しながら散歩やドライブなど、出来る限り戸外に出る機会を設けている。図書館など希望や目的に応じて外出が楽しめるような支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の錠はかけていない。また、居室の鍵は設置していない。玄関にはチャイムが設置しており、職員が見守ることにより安全で自由に過ごせるように配慮されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全職員と入居者家族で参加する避難訓練を定期的に行っており、消防職員から消火指導を受けている。運営推進会議で地域の方には災害緊急時の支援をお願いしていると共に、法人に勤務する職員が地域内に住んでいることもあり災害時の協力体制の強化につながっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食業者による高齢者福祉食を利用することにより栄養管理はなされており、毎食後の摂取量や水分量はチェック表に記入し職員全員が常に入居者の様子を把握している。問題が生じた時は医師に相談し指示に従い、一人ひとりの状態に応じた対応を取っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前は寮として使用されていた建物であり、安全面や空間づくりに配慮されている。施設のいたるところに季節を感じさせる展示物がある。また、採光もよく居室から見える景色は四季折々の変化を感じとることができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の使い慣れた物や馴染みの物が持ち込まれており、好みに応じて畳を敷いたりベットを使用したり居心地よく安心して過ごせるようになっている。職員は入居者の状態に応じてこまめに温度調節を行ったり、加湿器による湿度調節を行ったりと快適な生活の提供を心掛けている。		